

環境報告書 2026





(本学のイメージキャラクター「マナーブ・デ・ジョーキョー先生」)

目 次

学長メッセージ

1. 環境方針	1
2. 大学概要	2
3. 運営組織等	3
4. マテリアルバランス（環境負荷実績）	4
5. 環境物品等の調達実績	6
6. カーボンニュートラルに向けた取組の推進	7
7. 環境配慮活動	8
8. 地域との連携	9
9. 関係法令、環境規制への対応	9
10. 出前講座、公開講座の実施状況	10
11. 附属幼稚園の取組	11

報告対象：山屋敷キャンパス（大学・附属幼稚園）

西城キャンパス（附属小学校・学校教員養成・研修高度化センター）

本城キャンパス（附属中学校）

対象期間：2025 年度（令和 7 年度） 2025 年 4 月～2026 年 3 月

学長メッセージ



国立大学法人上越教育大学

学長 林 泰成

私たち人類は、自然環境に関して、人間の利益を中心にとらえたり、逆に、過度な自然環境の保護という立場にとらわれたりしながら、ようやく、生態系のバランスを保ちつつ生きていく術を探るという観点にたどり着いたように思います。しかし、地球規模のシステムで生態系を考えようとしてもなかなか難しい。どうすることが全体のバランスを保つことにつながるのかは、人によって考え方が違ってきます。また、そうした観点を持っていたとしても、ときには利益追求に走り、結果として自然破壊につながるというようなことは、人間という種が引き起こしがちな過ちの一つだと思います。

環境倫理学という学問分野があります。そこでは、世代間倫理というものが語られます。「現在を生きている私たちの世代は、未来を生きる次の世代の生存可能性に対して責任がある」という考え方をします。この考え方は、生命倫理学などとはまったく違った発想です。生命倫理学では、自己の命にかかわる決断は、基本的には本人が下すことを優先します。ところが、環境倫理学では、さまざまな資源はできるかぎり次世代に送って、次の世代に判断をゆだねることになります。環境と生命で、なぜ基本的な態度が違ってしまっているのかは興味深い問題だと思います。

さて、難しい問題はさまざまありますが、本学は、これまでも、そしてこれからも、環境負荷を削減する活動や、環境保全に向けた活動にも積極的に取り組みながら、教育研究に関する日々の業務を進めてまいります。本書は、その取組の報告書になります。

1. 環境方針

国立大学法人上越教育大学 環境方針

(平成 23 年 1 月 12 日制定)

上越教育大学は、自然や歴史、文化に恵まれ、教育に対する深い理解と愛情を有する文教の地において、国際化時代に対応し「地域に根ざした教員養成」を実現するにあたり、教育、研究、社会への貢献、地域連携等の活動に対し、全ての大学構成員が協力して、次の事項を推進することにより、環境との調和と環境負荷の低減に努めます。

1. 持続発展可能な社会の構築に貢献する力量を身につけるための環境教育・環境学習活動を推進し、教育現場をはじめ地域社会において環境保全の推進に活躍する人材の養成に努めます。
2. 豊かな自然との共生を図り、生物多様性を重視し、地球規模で環境を考え、地域から行動・発信し、評価できる人材の養成に努めます。
3. 環境関連法規を遵守するとともに、本学としての特徴を活かした持続発展教育や環境保全活動を推進し、地球環境に対する負荷の低減を図ります。
4. 循環型社会の構築を進めるための環境マネジメントシステムを確立するとともに、大学構成員の意見をもとに継続的な改善を図ります。

●環境に関する体制

上越教育大学における環境保全の活動を推進するため、学長の下に施設安全・環境委員会を設置しています。

施設安全・環境委員会（8名）

委員長：学長が指名する副学長【理事兼副学長（人事・環境・附属学校担当）】

委員：各学系から選出された教授または准教授（講師及び助教を含む）各 1 人（5 名）、事務局長兼副学長（事務総括・総合調整担当）、施設課長

（目的）

施設の安全、環境の保全（廃棄物の管理を含む）、施設の有効活用の促進及び施設整備（屋外環境整備を含む。）等について検討することを目的とする。

2. 大学概要



山屋敷キャンパス



西城キャンパス



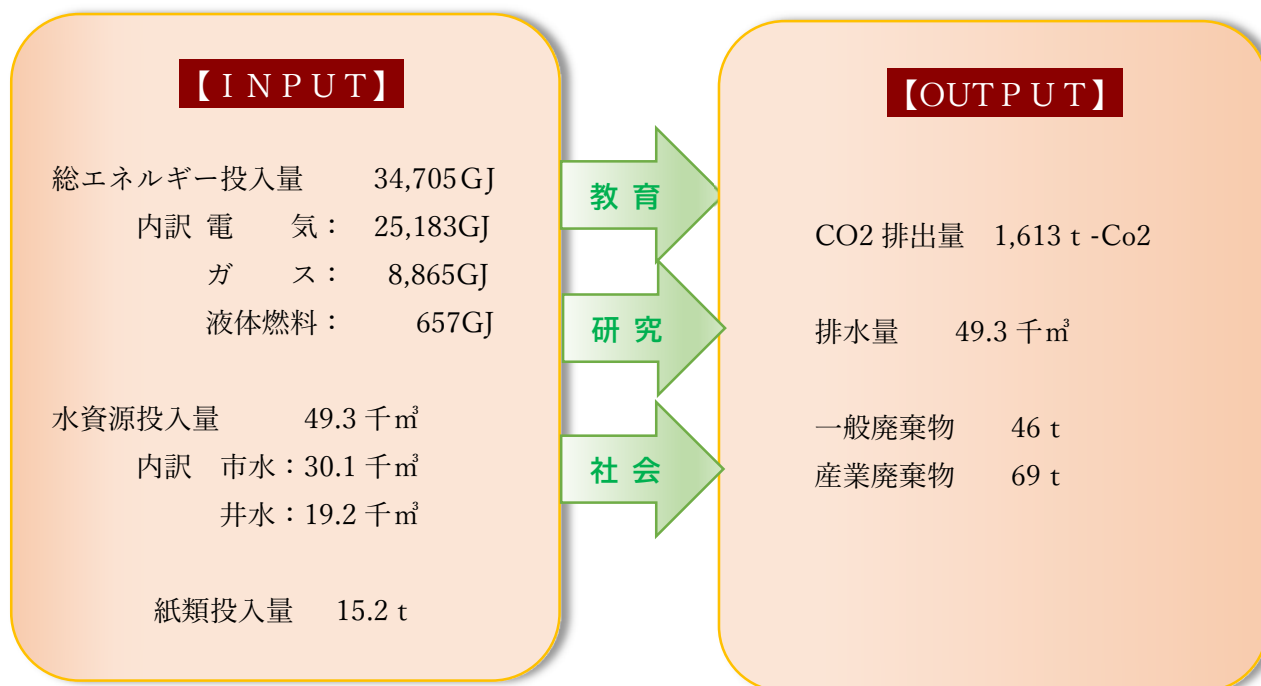
本城キャンパス

●データで見る大学概要(2025 年 5 月 1 日時点)

キャンパス名	山屋敷	西城	本城	その他	計
学生(学部)	680 名	—	—	—	680 名
学生(大学院)	419 名	—	—	—	419 名
学生(連合大学院)	32 名	—	—	—	32 名
園児・児童・生徒	46 名	402 名	322 名	—	780 名
教員	129 名	19 名	18 名	—	166 名
事務職員	106 名			—	106 名
土地	353,041 m ²	36,731 m ²	50,127 m ²	16,215 m ²	456,114 m ²
建物	66,437 m ²	7,987 m ²	5,930 m ²	8,457 m ²	88,811 m ²

4. マテリアルバランス(環境負荷実績)

本学の事業（教育・研究・社会）活動におけるエネルギー及び資源の投入量【INPUT】とその活動に伴って発生した環境負荷の排出量【OUTPUT】をあらわす。
 (※エネルギーの使用量については、省エネ法の参照による)

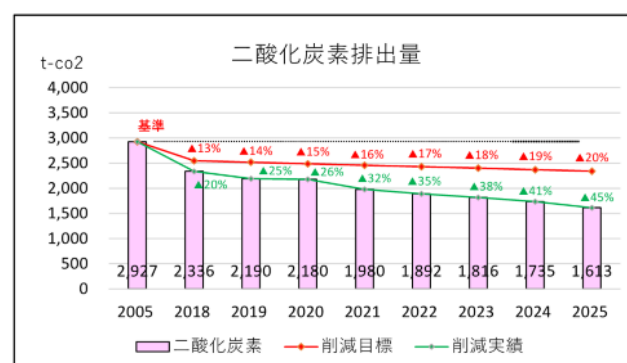
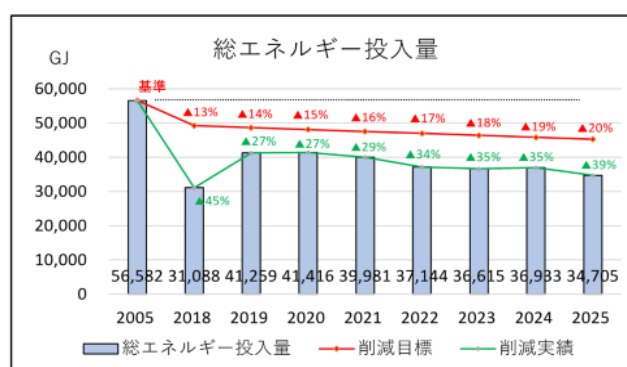


●エネルギー消費削減目標

本学は、2005 年度(平成 17 年度)の排出量を基準として、毎年 1 %削減することを目標に省エネルギーに取り組んでいます。

●エネルギー消費削減の行動

エネルギー消費削減目標を達成するため、エネルギー使用量の見える化を毎月実施し、省エネ意識の醸成を図っています。エネルギー消費削減目標を達成するため、エネルギー使用量が多くなる夏季及び冬季に節電計画を示し、削減目標の達成に向けて、省エネ行動を推進しています。



●エネルギー消費量分析・実績

本学で使用するエネルギー量のうち、電気使用量が73%を占めており、ガス使用量は26%、液体燃料は1%の構成です。

ガス使用量は、主に熱源用エネルギーとしてボイラー（暖房・給湯）、冷温水発生器(暖房・冷房)などに使用しています。

総エネルギー投入量は、平成17年度比39%減となり、前年度から6%減となりました。

対前年度との比較では、電気は4%減、ガスは14%減となりました。

本学のある上越市は多雪地帯のため、地下水を利用した消雪設備が構内道路に敷設されており、対前年度比で井水使用量が増加しました。

地球温暖化の原因とされる温室効果ガスのうち占める割合の多い二酸化炭素の排出量は、平成17年度比45%減、対前年度比7%減となりました。

●エネルギー消費削減の実施

高効率機器の導入として、自然棟の校舎改修工事に際し、LED照明、高効率空調設備、複層ガラス、断熱材、合成高分子系ルーフィングシート等の採用を行いました。



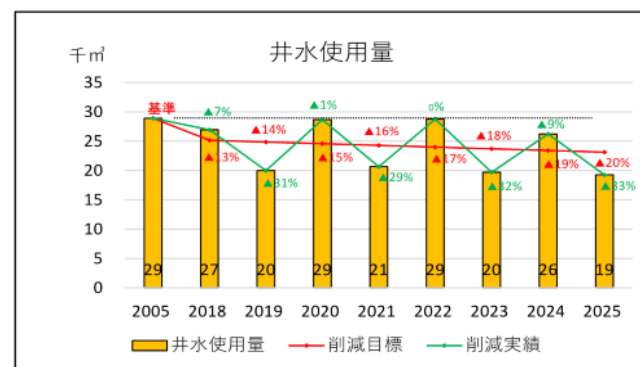
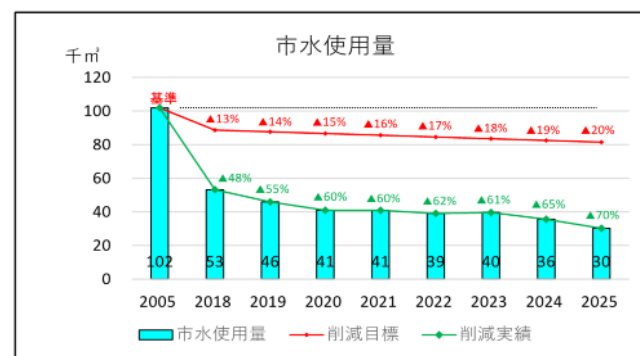
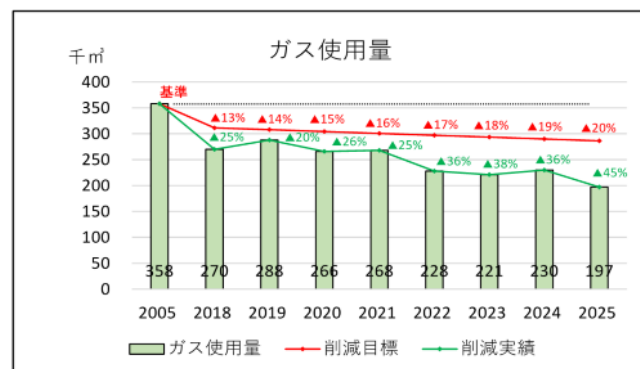
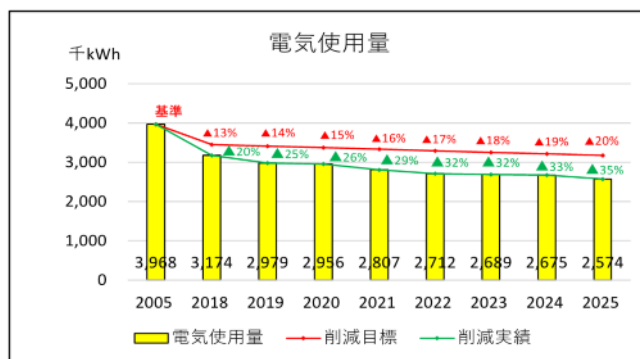
LED照明、高効率空調、複層ガラス



高効率空調設備室外機



防水改修



5. 環境物品等の調達実績

I. 令和7年度 特定調達品目の調達状況

①目標達成状況

調達方針において、調達予定のないもの以外の目標はすべて100%としていましたが、一部封筒類において判断基準を下回ったものの、ほぼ100%を達成することができました。

②調達目標を達成できなかった理由等

物品等関係で一部封筒類において、調達目標を達成できなかった主な理由としては、各種業務において、その用途の特殊性等の理由により、特定調達品目の中に仕様内容を満足する規格品がなかったことによります。

③判断基準より高い基準を満足する物品等の調達状況

判断基準より高い基準を満足する調達はありませんでした。

【令和7年度 グリーン購入実績】

分野	総調達	特定調達物品	目標達成
紙類（7品目）	15,227kg	15,227kg	100%
文具類（85品目）	57,049 個	34,049 個	59.7%
オフィス家具等（12品目）	686 品	686 品	100%
画像機器等（10品目）	1,413 台	1,413 台	100%
電子計算機等（4品目）	434 台	434 台	100%
オフィス機器（5品目）	3,057 個	3,057 個	100%
移動電話機等（3品目）	0 台	0 台	
家電製品（6品目）	8 台	8 台	100%
エアコンディショナー等（3品目）	5 台	5 台	100%
温水器等（4品目）	0 台	0 台	
照明（3品目）	31 個	31 個	100%
自動車等（8品目）	1 品	1 品	100%
消火器（1品目）	100 本	100 本	100%
制服・作業服（4品目）	37 品	37 品	100%
インテリア・寝装寝具（11品目）	2 品	2 品	100%
作業手袋（1品目）	14 組	14 組	100%
その他繊維製品（7品目）	2 点	2 点	100%
設備（11品目）	68 件	68 件	100%
災害備蓄用品（既存品目以外の10品目）	10,063 個	10,063 個	100%
役務（20品目）	630 件	630 件	100%
ごみ袋等（1品目）	11,805 枚	11,805 枚	100%

II. 温室効果ガス等の排出の削減に配慮した契約の締結実績の概要

令和7年度は、使用する電気の供給を受ける契約及び自然棟改修実施設計業務の契約、2件を締結しました。

6. カーボンニュートラルに向けた取組の推進

上越教育大学は、2050年カーボンニュートラル実現に向け、令和4年6月に「国立大学法人上越教育大学における温室効果ガス排出抑制等のための実施計画（第4期）」を策定し、2030年度までに、2013年度比51%の温室効果ガス排出削減を目指す取り組みを行うこととしています。

目指すべき方向

I. キャンパスの取組（Campus）

全キャンパスにおいて、省エネルギーの実施、創エネルギーの導入、再生可能エネルギーの利用等に取り組み、カーボンニュートラルの実現を目指す。

II. 研究の取組（Research）

学校教育におけるカーボンニュートラル実現に向けた課題解決のため、教育現場に根ざした研究活動を推進する。

III. 人材育成の取組（Education）

地球規模の環境問題に関する教育を通じ、脱炭素に進む社会の要請に貢献出来る人材を育成し、カーボンニュートラルを含めた持続可能な社会の実現を目指す。

IV. 社会貢献の取組（Social Contribution）

地球環境問題の課題解決に向け、本学がかかわるさまざまな活動を通して社会貢献し、カーボンニュートラルを含めた持続可能な社会の実現を目指す。

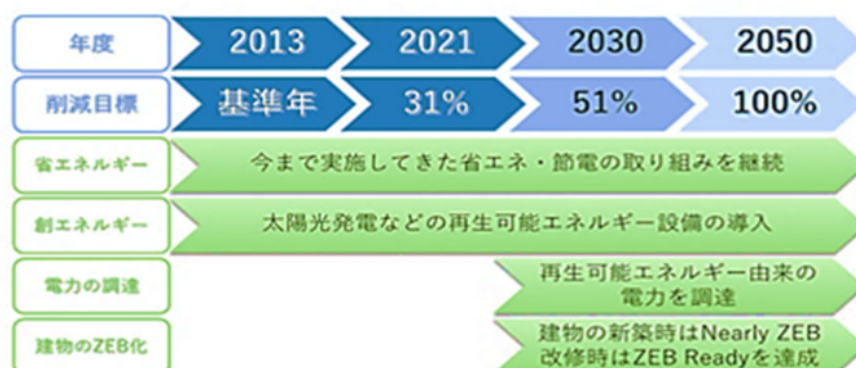
温室効果ガス削減目標

カーボンニュートラル実現に向けた目標を定め、教職員、学生のみならず、本学にかかわる全ての構成員が一丸となり取組を推進する。

- ・短期目標：前年度比▲1%
- ・中期目標：2030年度までに2013年度比▲51%
- ・長期目標：2050年度までにカーボンニュートラルの達成

実現に向けたロードマップ

中期目標の2030年度に51%の削減、長期目標の2050年度にカーボンニュートラルを実現するためのロードマップを示す。



7. 環境配慮活動

I. 上越教育大学リサイクル募金

上越教育大学リサイクル募金は、不要になった本・DVD等の査定額を「上越教育大学基金」に寄附していただく取組です。

寄附金は、上越教育大学基金において、学生の修学支援、教育研究活動の充実発展をはじめとした事業に役立てられます。



II. キャンパス・クリーン・ウィーク

令和7年7月18日（金）～24日（木）の一週間を「構内クリーンウィーク」として、山屋敷キャンパスの環境整備を行いました。

例年この時期に学生及び教職員が集まり、2019年度までは、半日かけてキャンパス内の一斉清掃を行っていましたが、2020年度からは、新型コロナウイルス感染予防対策として、一週間の中で各自が都合の良い日時に作業を行うこととしています。



III. 緑の小道

緑の小道周辺の森は、古来より脈々と継承されてきた歴史と文化が既存樹木を介してうかがい知ることができる貴重な体験の場であり、その貴重な森を守るには、上越地域の潜在自然植生種の保護育成に努め、外来種をできるだけ排除する環境整備を行うことが重要です。

かつて地域の人々の生活の場であった里山（薪炭林や農用林として使われ、守られてきた二次林）を散策道として整備したもので、自然環境学習の貴重な教材として本学の学生や地域の子供たちなどが、里山の森を体験できる学びの場として内外から活用されています。

整備当初から保全・整備及び活用推進を図るため「緑の小道レンジャー隊」を毎年、学生・教職員により編成しており、危険個所の点検等を実施しています。



8. 地域との連携

春日山城跡の環境整備等の取組に参画

令和7年7月20日（日）春日山城跡保存整備促進協議会が主催する「春日山城跡草刈り」の参加者を学内に広く募集を行いました。これは、上杉謙信公の居城として知られる春日山城跡の環境整備事業として行われているものです。

春日山城跡のお膝元に位置する大学として、引き続き地域貢献に努めていきます。



9. 関係法令、環境規制への対応

関係法令等	本学の対応
水質汚濁防止法	水質検査
下水道法	水質検査
大気汚染防止法	ばい煙測定
グリーン購入法	公表
環境配慮契約法	公表
上越市生活環境の保全等に関する条例	届出

10. 出前講座、公開講座の実施状況

出前講座、公開講座は、大学の教育と研究の成果を広く地域社会に還元し、一般の方の生涯学習や、現職教員の方の研修の機会として役立てていただくために、地域貢献活動の一環として行われている事業です。この中で、「環境・自然」に関わるものを紹介します。

分野	講座名	講座概要	担当教員	実施日
社会・国際教育	地域の災害に備える	日本では、毎年いくつもの災害が発生しています。日本は、世界の中でも多様な災害が高い頻度で発生する地域です。そのため、日本列島で生活する私たちは、そうした災害と折り合って暮らしていかなければなりません。そのために、まず必要なのは、災害や、災害を引き起こす現象について、よく知ることです。 例えば、地震災害は、主に地震動（揺れ）によって引き起こされます。しかし、それぞれの地震災害によって、災害の様相は異なります。これは、地震災害の被害が生じる過程に、地域の自然的および人文・社会的な条件が作用しているからです。そのため災害を知ることとは、地域を知ることにつながります。	山縣 耕太郎	10月29日,
	雪国の植物	雪国の植物を調べると、雪に耐える姿と、雪を利用する姿とがあることに気付きます。上越地方でも比較的積雪が少ない海岸沿い等に自然な生育地に限られる植物は、場所を選ぶことで雪国の厳しい環境に耐えて生育している植物であると考えられます。一方、雪深い山地にまで生育する常緑の低木や野草は、冬の寒さを雪の下になることでしのいでいる植物です。積雪下では、雪の断熱効果により氷点下になりにくいため凍害を免れ、乾燥や風害からも身を守ることができます。	五百川 裕	7月6日
	びかびか泥団子をつくろう	泥団子作りを通して、子供たちに土(自然)と触れ合い、土(自然)に関心を持ってもらう機会としてもらいたいと考えています。	山縣 耕太郎	6月5日, 7月10日 7月11日 10月16日
算数・数学・理科	地域の地形・地質の野外観察	地域の地形・地質を理解することは、地域の特徴や土地の成り立ちを理解するため、あるいは災害に備えるために重要と考えられます。 地域の地形・地質を観察する機会を提供します。	山縣 耕太郎	9月19日

11. 附属幼稚園の取組

附属幼稚園は、「太陽・土・水の大好きな子どもたち」を育むことをテーマとし、保育活動を進めています。その実現に向け、幼児が様々な遊びを通して身の回りの自然環境について興味や関心を持ち、大切にしていこうとする気持ちを高められるような園庭環境の整備に努めています。また、豊富な自然物を活かした遊びや、生き物との触れ合いや飼育、野菜の栽培など、自然環境を直接体感できる活動を積極的に取り入れ、環境教育へのつながりを意識した取組を日々行っています。

また、本園は、開園当初から屋外での遊びを推奨しています。園庭には様々な樹木や草花が植えられており、子どもたちは自然の素材を活かしながら季節に応じた遊びを展開します。晴れた日はもちろんのこと、雨降りの日は水たまりの水や泥の感触を楽しみ、風が吹けば空を舞う葉に歓声を上げるなど、子どもたちは様々な自然現象に興味をもってかかわります。園庭には池もあり、様々な虫や生き物に触れる機会も多く、遊びを通して命の大切さを学ぶことができます。

このように子どもたちが思い思いに遊びに浸ることができる環境を保つには、日々の環境整備が欠かせません。時には保護者の協力を得ながら、共に環境を整えていく活動を取り入れています。子どもの遊び・育ちを支えるだけでなく、保護者の環境保護への関心を高める上でも大切な取組となっています。



グミ採り



雨どい遊び



保護者による園庭整備作業



公表年月：2026年9月

作成：上越教育大学施設課

〒943-8512 新潟県上越市山屋敷町1番地

Tel：025-521-3263 / Fax：025-521-3269

E-mail：shisetsu@juen.ac.jp

URL <https://www.juen.ac.jp/index.html>